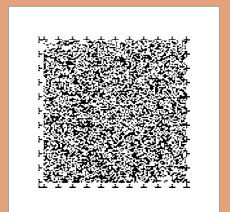




《基本目標》

4

豊かな自然と調和し  
便利で快適な住み心地よい  
まちをつくる



4-1 良好な景観を守り質の高い都市機能・住環境を整備する

5年後のまちの姿

都市と田園の風景が調和した景観と良好な街並みが保全されています。また、都市に求められる様々な機能が集約された、持続可能な都市の実現に向けた取組みが進められています。

さらに、駅周辺地域におけるまちづくりや空家等対策の取組みにより、良好な住環境が整備されています。

◇関連するSDGsの主なゴールとターゲット

ゴール				
ターゲット	11.1	11.2	11.3	11.a

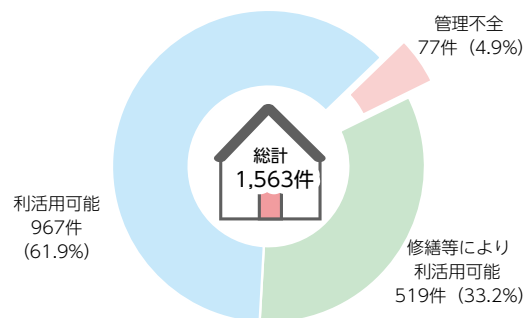
現状と課題

- 少子高齢化や人口減少が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の都市機能を確保し、人々が安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進めることが重要となっています。
- 都市・田園・河川等が織りなす景観は、これからも守り続けたい本市の大切な財産です。一方で、市内のインターチェンジ周辺や主要な幹線道路の沿道等、交通利便性が高い地域を中心に開発需要が高まっていることから、こうした良好な景観を保全するための対策が必要です。
- 鉄道駅周辺等の市街地においては、交通混雑が発生しているほか、土地利用の高度化が図られず、潜在価値が発揮できていない状況が見られます。また、駅前広場や都市計画道路が未整備の箇所があるなど、都市基盤の整備が不十分な状況もみられます。こうした状況を改善し、暮らしやすい魅力的なまちづくりを進めることが求められています。
- 既存の工業団地における空き用地が少ないため、新たな企業立地の需要に応えられていない状況にあります。そのため、交通利便性の高さを生かした産業基盤の整備を進めることが求められています。
- 地域の生活環境に影響を及ぼす管理不全の空家等が問題となっている中、住みやすく快適な住環境を創出するため、空家等対策を進めていくことが必要です。

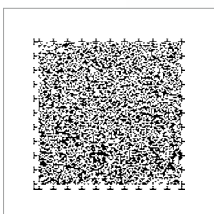


南栗橋8丁目周辺地区まちづくりイメージ図

令和2年度空家等実態調査結果による空き家数



出典：都市整備課資料



## 施策の方向性



### 協働・共創のまちづくり指針

- 豊かな自然を守るため、清掃活動等を通じて景観保全に協力します。
- 地区計画により形成された良好な街並みの保全に協力します。

### (1) 緑豊かで良好な景観を守り続けます

県の景観条例及び景観計画に基づき、建築行為等に対する指導を行い、市街地と農地や自然が調和する景観を保全します。また、地区計画に基づく適切な指導を行い、良好な街並みを保全します。

### (2) 総合的な視点から質の高い都市をつくります

環境に配慮しつつ、医療や商業等の様々な機能を併せ持つ都市の形成を図るとともに、各地区の地域資源を生かした街並みを創出し、健康で快適に生活できるまちづくりを進めます。また、鉄道駅周辺の市街地においては、駅前広場や都市計画道路といった都市基盤の整備を推進するとともに、これからの都市に求められる「コンパクト（集約）」、「スマート（技術活用）」、「レジリエント（強靱）」の要素を取り入れたまちづくりを、産官学の連携や市民との協働により進めます。特に、久喜駅東西口周辺においては、本市の中心拠点にふさわしい市街地として、最適な交通環境を構築するとともに、多様な都市機能の集約を進めます。

さらに、インターチェンジ周辺や主要な幹線道路の沿道等において産業基盤の整備を促進します。

### (3) 住みやすく快適な住環境をつくります

温室効果ガスの排出削減等、ゼロカーボンシティ<sup>\*1</sup>の実現を目指すため、建物等の省エネルギー化・ゼロエネルギー化を促進します。また、より良好な住環境を創出するため、「改善、活用・流通、予防」の視点から空家等対策を推進します。

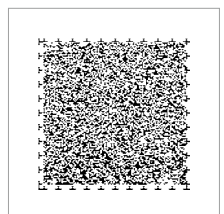
さらに、水害時に浸水等の被害が想定される市街化調整区域における新たな住宅開発を抑制します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (R3 (2021))	目標値 (R9 (2027))
次世代技術を取り入れた都市環境の整備面積	0.0ha	12.5ha
空き家のサポート窓口における活用・流通実績数	0件	50件

### 関連する分野別計画

- 久喜市都市計画マスタープラン（平成 25（2013）年度～令和 14（2032）年度）
- 久喜市空家等対策計画（令和 3（2021）年度策定）

\*1 ゼロカーボンシティ：p.15参照。






4-2 安全で快適な道路の整備と公共交通の利便性を高める

5年後のまちの姿

地域間や拠点間を結ぶ幹線道路や生活道路の整備、橋梁の長寿命化の推進、歩行者や自転車の安全の確保により、安全で円滑な移動が実現しています。また、圏央道が4車線化され、久喜駅東側でスマートインターチェンジの整備が進んでいます。

さらに、民間事業者と市により公共交通が維持され、高齢化による交通弱者<sup>\*1</sup>の増加にも対応しています。

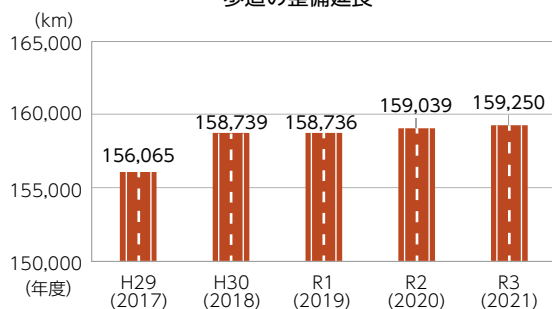
◇関連するSDGsの主なゴールとターゲット

ゴール			
ターゲット	3.6	9.1	11.2 11.3 11.7

現状と課題

- 安全で利便性の高い道路網は、人々の生活だけでなく、産業の活性化にも不可欠な都市基盤です。また、高齢化に伴う交通弱者の増加も予測されるため、国は、まちづくりと連携して面的な公共交通ネットワークを再構築し、「コンパクト・プラス・ネットワーク（地域公共交通と連携した集約のまちづくり）」の実現を図っています。
- 本市の主要な道路骨格は、東北道や圏央道、国道4号・122号・125号、主要地方道さいたま栗橋線等で構成され、国道125号バイパスの完成や圏央道の4車線化工事が進んだことにより、さらに広域的な交通利便性が高まっています。この交通利便性を最大限に生かすため、地域間や拠点間を結ぶ幹線道路の整備、久喜駅東側での圏央道スマートインターチェンジの設置及び関連する道路の整備が必要です。
- 市内における交通渋滞の解消を図り、安心して通行できる道路環境となるよう国道や県道の整備の促進が必要です。また、市民生活に密着した道路を適切に維持管理するとともに、幅員の狭い道路の解消や道路環境の改善を図ることが必要です。
- 河川が多い地域特性から、道路の整備に伴う新たな橋梁の設置が必要です。また、既存の橋梁は老朽化が進んでいるものもあり、橋梁の長寿命化の推進が必要です。
- 自転車は日常生活の移動手段のほか、レジャーや健康づくり、環境負荷の軽減にも繋がることから、安全で快適に利用できる環境づくりが必要です。
- 本市では、市内循環バスやデマンド交通<sup>\*2</sup>（くきまる）、くきふれあいタクシー（補助タク<sup>\*3</sup>）を運行していますが、今後も民間事業者と連携を図り、公共交通手段を維持していくことが重要です。

歩道の整備延長



出典：久喜市舗装率調査



整備された道路（西堀・北中曽根線）

## 施策の方向性



### 協働・共創のまちづくり指針

- 身近な道路を美しく保つため、清掃等の道路美化活動に参加します。
- 買い物等での外出の際は、できるだけ公共交通機関を利用し、環境負荷の軽減にも心掛けます。

### (1) 広域的交通利便性を最大限に生かすための道路整備を進めます

各地区の拠点間を結ぶ、広域避難路としても有効な都市計画道路や幹線道路を整備し、移動軸の形成を図ります。また、東北道や圏央道等による交通利便性を最大限に生かすため、久喜駅東側における圏央道スマートインターチェンジの設置に向けた検討を行うとともに、関連する道路整備を進めます。

さらに、主要地方道川越栗橋線や主要地方道春日部久喜線、県道幸手久喜線等の歩道整備を含めた道路拡幅及び交差点改良、県道久喜騎西線のバイパス整備等を促進します。

### (2) 生活道路と橋梁の安全性を高めます

道路の不具合や危険箇所の早期発見に努め、速やかな補修等を行うとともに、地域のニーズを踏まえ、快適な生活道路の整備を推進します。また、橋梁については、計画的に点検や修繕を行い、長寿命化を図ります。

さらに、自転車の安全な活用を推進するため、自転車ネットワーク計画を策定します。

### (3) 市内公共交通の利用を促します

都市へのアクセスの良さや道路・鉄道の交通利便性を堅持・発展させるために、事業者との連携により、民間公共交通の利用を促します。また、市が運行する公共交通についても利用を促し、交通弱者も含めた市民の移動手段の確保に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (R3 (2021))	目標値 (R9 (2027))
歩道整備延長	159,250m	165,000m
舗装整備率	75.04%	75.52%
市が運行する公共交通利用者数	154,229人 ※コロナ影響 166,125人 (R元年度)	190,500人

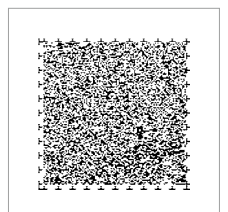
#### 関連する分野別計画

久喜市都市計画マスタープラン (平成 25 (2013) 年度～令和 14 (2032) 年度)

久喜市橋梁長寿命化修繕計画 (令和 3 (2021) 年度見直し)

久喜市地域公共交通計画 (平成 25 (2013) 年度策定)

\*1 交通弱者：p.46参照。  
\*2 デマンド交通：p.29参照。  
\*3 補助タク：p.29参照。



4-3 憩いとやすらぎの空間を充実する

5年後のまちの姿

身近な公園施設が整備されるとともに、行政と市民の協働のもと、維持管理が適切に行われ、市民の憩いとやすらぎの空間が実現しています。

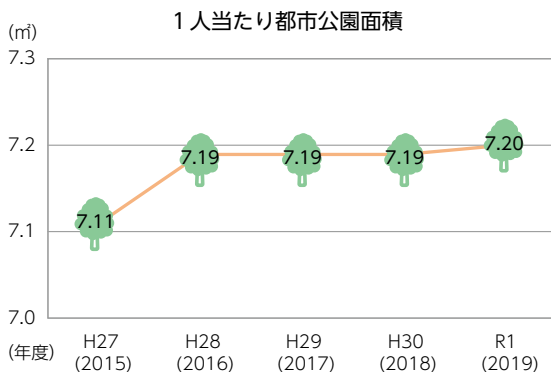
また、多様な生態系の保全に繋がる生物の生息・生育に配慮した水辺環境の保全や、市民参加による緑化が実現しています。

◇関連するSDGsの主なゴールとターゲット

ゴール			
ターゲット	6.6	11.3 11.7	15.1 15.2 15.3 15.5

現状と課題

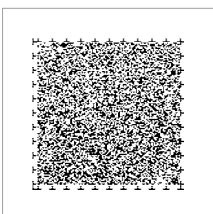
- 公園や緑地は、都市にとって貴重な憩いとやすらぎの空間であるだけでなく、防災機能をはじめとした多様な機能を有しています。そのような中、公園施設の老朽化対策や維持管理等が課題となっています。
- 本市は、恵まれた自然環境の中、市民の憩いとやすらぎの空間を充実させるため、更なる公園整備に努め、現在、「(仮称)本多静六記念 市民の森・緑の公園」や、栗橋駅西地区での公園整備を進めています。また、公園利用者が快適に利用できるよう、既存の公園トイレの改修や更新が必要です。
- 公園施設は老朽化が進んでおり、久喜市総合運動公園の大規模改修や、その他の都市公園の施設・遊具等の更新が必要です。
- 市民生活に密着した公園や緑地の管理には、市民参加が欠かせません。今後も、愛着ある公園づくりに向けて、市民参加による維持管理を促していくことが重要です。
- 本市には、大小多くの河川や池沼があり、水辺環境に恵まれています。これらを生かし、市民が憩える美しく潤いのある水辺の環境づくりが必要です。



出典：埼玉県公園スタジアム課資料



南栗橋近隣公園 (ウォータープラザ)



## 施策の方向性



### 協働・共創のまちづくり指針

- 🌀 身近な公園を美しく保つため、公園の美化活動や、維持管理活動に参加します。
- 🌀 河川・水路等の身近な水辺に関心を持ち、環境保全活動を行います。
- 🌀 地域の緑を守るため、「緑の募金」や植林活動に協力します。

### (1) 市民等に親しまれる公園を整備します

本市の偉人を顕彰した「(仮称) 本多静六記念 市民の森・緑の公園」や、栗橋駅西地区での公園整備等を進めます。また、老朽化に伴い公園施設を更新する際には、地域の特性やニーズ等を踏まえ、健康遊具やユニバーサルデザイン遊具\*1等の整備を進めます。

さらに、公園トイレが快適に利用できるよう、改修や更新を行います。

### (2) 公園施設の計画的な長寿命化等の推進と、管理への市民参加を促します

公園施設の長寿命化や、遊具の更新等を計画的に進めます。また、引き続き市民・団体の理解と協力を得ることにより、市民参加による公園の維持管理を推進します。

### (3) 良好な水辺環境を保全し、公共空間の緑化を推進します

景観や多様な生態系に配慮した水辺環境の保全を、市民参加をはじめとした様々な手法により推進します。また、レクリエーションや水に親しむ場の創出に努めます。

さらに、緑の保全と創造のため、公園をはじめとした公共空間の緑化を推進し、一般家庭への苗木配布等を進めるとともに、保存樹木・樹林等の緑の保全に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (R3 (2021))	目標値 (R9 (2027))
市民1人当たりの都市公園面積	7.38㎡ (速報値)	8.13㎡
公園の地元管理業務委託締結数	151公園	155公園

### 関連する分野別計画

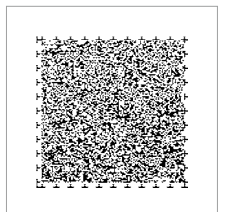
久喜市都市計画マスタープラン (平成 25 (2013) 年度～令和 14 (2022) 年度)

久喜市公園施設長寿命化計画 (令和 2 (2020) 年度～令和 12 (2030) 年度)

第 2 次久喜市環境基本計画 (令和 5 (2023) 年度～令和 14 (2032) 年度)

久喜市緑の基本計画 (平成 27 (2015) 年度～令和 6 (2024) 年度)

\*1 ユニバーサルデザイン遊具：障がいの有無に関わらず、誰もが利用できるようにデザインされた遊具のこと。



4-4 安全・安心な水道水の供給と衛生的な生活環境をつくる

5年後のまちの姿

計画的な水道施設の更新・耐震化及び効率的な事業運営が図られ、水道水が安定的に供給されています。

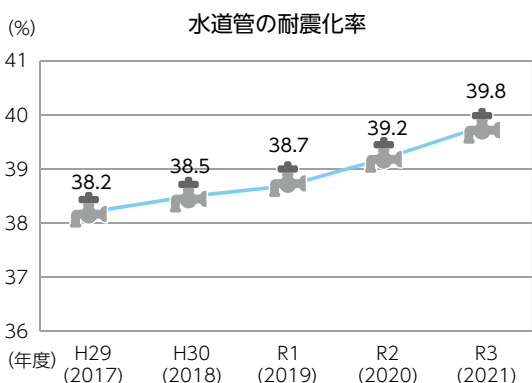
また、公共下水道の計画的な整備、農業集落排水処理施設の適切な維持管理及び合併処理浄化槽の普及により、衛生的で快適なまちが実現しています。

◇関連するSDGsの主なゴールとターゲット

ゴール			
ターゲット	6.1 6.2 6.3 6.4	14.1 14.3 14.5 14.c	16.6

現状と課題

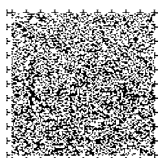
- 上水道・下水道は、人々の暮らしを支える社会基盤ですが、施設の老朽化が進んでおり、その更新が課題となっています。また、地震等の災害に強い上水道・下水道の整備や、より効率的な事業運営も求められています。
- 安全・安心な水道水を安定的に供給するため、「久喜市水道ビジョン（経営戦略）」に基づく、経年劣化した施設の更新や配水池・配水管の耐震化と効率的な事業運営の推進が必要です。
- 衛生的で快適なまちづくりを実現するため、「久喜市下水道事業中期経営計画（経営戦略）」に基づく、公共下水道事業計画区域内の未整備地域の整備や合流式下水道\*1の改善が必要です。また、施設の適切な維持管理と効率的な事業運営の推進が必要です。
- 公共下水道事業計画区域外では、農業集落排水処理施設や浄化槽（合併・単独）によって、生活排水等を処理しています。今後も、農業集落排水処理施設の適切な維持管理と単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換の促進が必要です。



出典：水道施設課資料



八甫浄水場 1号配水池の更新工事



\*1 合流式下水道：汚水と雨水を同じ下水道管で排水する下水道のこと。



施策の方向性



協働・共創のまちづくり指針

- ⚙️ 貴重な資源である水に関心を持ち、水を大切に使います。
- ⚙️ 水環境に高い関心を持ち、台所で油等を流さないように心掛けます。

(1) 水道水を安定的に供給します

将来にわたり安全・安心な水道水の安定供給を図るため、老朽化した施設の更新や配水池・配水管等の耐震化を進めます。また、人口減少等により料金収入の増加が見込めない傾向にあるため、水需要の動向にあわせた水道施設の適正化を図るなど、効率的な水道事業運営に努めます。

(2) 公共下水道施設の整備を推進します

公衆衛生の向上や都市の健全な発達に寄与するため、公共下水道事業計画区域内の未整備地域の整備、浸水対策や合流式下水道の改善を進めます。また、管渠等の施設の適切な維持管理、公共下水道への接続促進、使用料の適正化等、効率的な公共下水道事業運営に努めます。

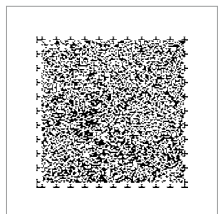
(3) 農業集落排水処理施設の適切な維持管理と合併処理浄化槽への転換を進めます

公共用水域や農業用水の水質保全に資するため、農業集落排水処理施設の機能強化や適切な維持管理に努めるとともに、公共下水道への接続を推進、使用料の適正化等、効率的な農業集落排水事業運営に努めます。また、浄化槽処理促進区域においては、単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (R3 (2021))	目標値 (R9 (2027))
水道管の耐震化率	39.8%	43.5%
下水道普及率	76.6%	78.8%

関連する分野別計画

- 久喜市水道ビジョン (経営戦略) (令和5 (2023) 年度～令和14 (2032) 年度)
- 久喜市下水道事業中期経営計画 (経営戦略) (平成30 (2018) 年度～令和9 (2027) 年度)
- 久喜市下水道ストックマネジメント計画 (平成31 (2019) 年度～令和5 (2023) 年度)
- 久喜市合流式下水道改善基本計画 (令和3 (2021) 年度策定)
- 農業集落排水最適整備構想 (令和2 (2020) 年度策定)
- 久喜市一般廃棄物 (生活排水) 処理基本計画 (令和3 (2021) 年度～令和7 (2025) 年度)
- 久喜市 宮代町地域 循環型社会形成推進地域計画 (平成29 (2017) 年度～令和5 (2023) 年度)



【コラム】

## 次世代技術を取り入れた都市環境の整備

本市は、南栗橋8丁目及びその周辺を対象とした地区において、次世代型のまちづくりプロジェクト「BRIDGE LIFE Platform 構想」<sup>ブリッジライフプラットフォーム</sup>を推進しています。

本プロジェクトでは、あらゆる世代の方が安心して快適に暮らせる「サステナブルシティ」の実現に向け、様々な先進技術に基づく取組みを行っています。

### ●先進技術に基づく取組み例① ZEHの建築

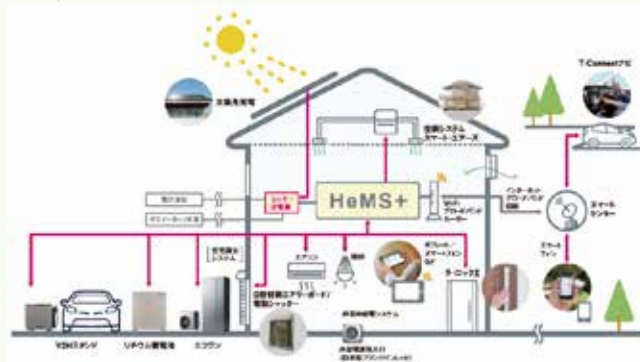
ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とは、太陽光等で創り出すクリーンなエネルギーの量が、家庭で消費するエネルギーの量を上回することで、年間のエネルギー消費量が実質ゼロ以下となる住宅をいいます。

本地区では、太陽光発電システムやホームエネルギーマネジメントシステム(HeMS)を搭載した全172戸のZEHの建築を進めています。

今後、住宅の新築や建て替えをする際は、環境にやさしく省エネ性能の高いZEHの建築を検討してみませんか。



南栗橋8丁目周辺地区におけるZEH



ZEHの仕組み

### ●先進技術に基づく取組み例② 次世代モビリティの実証実験

近年、目的地まで自動で走行しながら物流拠点や小売店舗の荷物を運搬するロボット等、次世代モビリティに関する研究が進んでいます。

本地区では、スーパーマーケットで購入した商品を住宅に届ける自動配送ロボットの走行実験のほか、ごみ捨ての負担を軽減するための非接触ごみ収集ロボットの導入試験を進め、社会実装に繋げていくことを目指しています。



自動配送ロボット



非接触ごみ収集ロボット

